
同僚

ヤマダゴロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

同僚

【Nコード】

N2120A

【作者名】

ヤマダゴロウ

【あらすじ】

急に痛みだした右胸。ホラー？のような、不思議話。怖くないです。

右胸が痛い

異変に気付いたのは三日前の正午過ぎ

その時はまだ、ちくりとした。ほんの些細なものだった。

だが、次第にその痛みは右胸から胃・腸・腎臓…と広がり、痛みはがつんがつんと叩かれているような感覚に変わっていった

「痛え…。」

一人、部屋でうずくまる。

いたいいたいいたい。

この痛みのせいで眠れない夜もあった

叫び出したくて泣きたくなったが、必死にこらえて平静を装う。

辛くて死にたくなった。

そして怖くなる。

怖くて怖くて仕方がない。この痛みは何なのか…と。

ある日（正確には、痛みが左足にまで達した日）俺はある事に気付いた。

ここまで来てソレに気付くなんて、とてもまぬけな話かもしれないのだが。

左胸に何も感じないのだ。

これほどの激しい痛みに襲われていても、左胸だけは何も感じていなかったのだ。

ばかりと穴が空いたように

「病院行った方がいいんじゃないやねえ？」

同僚が声をかけてきた。

俺の顔色があまりにも悪かったせいだろう。

「いや、だいじょうぶ。」

「…に、見えないから言ってるんだが？」

「心配症だなあ…。」

「お前なあ…心配もするさ。」

同僚の気遣いが嬉しかった。だが俺は、病院に行くことを拒んでいた。

怖かったのだ。

「病院行つたつてなあ…。」

「ん？」「どうせ、たいしたことないって言われるのがオチだ。」

俺はそう言つて軽く笑つてやった。

「なあ、ところでさ。この書類…。」

同僚は未だ心配そうに俺を見つめたが、俺は気付かない振りをして、話を進めた。

右胸がずきずきと痛む。

いたいいたいいたいいたいいたいいたいいたいいたいいたい。

「おまえ…。本当に大丈夫かよ？」

同僚が俺の肩を擦る。

「あ…ああ。」 大丈夫だと、右手を立てる。

「そんな顔色を悪くして、大体おまえは…。」

同僚が何かを言っている。

ああ、駄目だ。聞こえない。

ふと、時計を見たら正午を丁度過ぎた所だった。

ああ、右胸が痛い…。

俺は左胸を押さえた。

膝を付き、床に横たわる。

どさりと鈍い音がし、全身が引き裂かれるように痛い。

いたいいたいいたいいたいいたいいたいいたいいたいいたい。

すごくいたくて仕方がない。

ああでも…。

左胸は痛くない。

同僚が倒れた。

割と親しくしていた奴で、そいつといると時間があったという間に過ぎ、楽しくて仕方がない。

そいつが、目の前で倒れた。

私は慌てて同僚を病院まで連れて行つた。

…救急車を呼べば良かったのだと、今になって思う。

今朝会った時から『顔色が悪いなあ…』と思っていた。

だからもっと早く声をかけるべきだったのだ。「お連れの方ですか…？」

医者らしき人物が、おそろおそろ声をかけてきた。

「あ…はい。」

「あの、2・3お伺いしたいことが…」

医者は、重々しく口を開いた。

心臓が止まっているという。
状態から見ても、3日前から。

「こんな事はありません」
と、医者は語った。

他に誰も居ない病室で、俺は息を吹き替えた。

何だかよく分からないが、俺はまだ生きているらしい。

心臓の辺りを右手で掴んだ。

良かった。俺はまだここにいます。

ここに居たい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2120a/>

同僚

2010年10月12日07時17分発行